



GOVERNANCE

# コンプライアンス

日本化薬グループは、コンプライアンスは事業活動の基盤であると考え、法令遵守・社会規範の遵守はもとより、社会からの要請に応えるべきものとして広く捉えて具体的な活動を実施し、継続的な啓発に取り組んでいます。また、私たちは、社会から信頼される企業であるため、そしてすべてのステークホルダーの信頼に応えるため、コーポレート・ガバナンス体制の拡充・強化に取り組んでいます。

詳しくはWEBをCHECK!

- コーポレート・ガバナンス
- 日本化薬グループの行動憲章・行動基準
- コンプライアンスの浸透と醸成



日本化薬グループ

## コーポレート・ガバナンス

日本化薬グループは、社会から必要とされる企業であり続けたいと考えています。そのために、CSR経営の一環として継続的にコーポレート・ガバナンス体制の拡充・強化を推進しています。その取り組みとして、2020年3月に「コーポレートガバナンス基本方針」を定め、6月には、「指名・報酬諮問委員会」を設置します。

今後も、企業ビジョンKAYAKU spiritに基づき、持続的

な成長と中長期的な企業価値のさらなる向上を図るため、すべてのステークホルダーの皆さまへのタイムリーかつ公正な情報開示や取締役会のチェック機能強化により、経営の透明性、公正性を確保し、引き続きコーポレート・ガバナンスを推進していきます。

2020年1月に改定!



日本化薬グループ行動憲章・行動基準

## 日本化薬グループ行動憲章・行動基準の改定

日本化薬グループ行動憲章・行動基準は2000年に制定され、日本化薬グループが社会的責任を果たすため、すべての社員で共有し、私たちの行動の「道しるべ」として位置づけられています。

その後、企業にはさまざまな場面で社会的責任を果たすことが求められるようになり、2020年1月、「人権」「危機管理」「地域社会」「対話」を新たな要素として加え、行動憲章・行動基準の改定を行いました。

今回の改定に合わせ、自分自身の行動の振り返りや職場での気づきなどの活用のために冊子をリニューアルし、国内の日本化薬グループ全社員へ配付しました。新しい「道しるべ」を行動の基本とし、KAYAKU spiritの実現を通じた社会的問題の解決を積極的に目指していきます。

## コンプライアンス教育研修

日本化薬グループの国内のコンプライアンス教育研修は、毎年テーマを決めて実施している他、職場ごとに定例会議などの場を利用した勉強会や事例を基にした研修を行っています。2019年度コンプライアンス研修はハラスメントの防止やパフォーマンス向上に役立つ「アンガーマネジメントを学ぼう」という内容で実施しました。すべての社員に対して研修機会とプログラムを提供するために、日本化薬ではeラーニングを中心に研修を実施し、関係会社では、集合研修や研修内容を録画したDVD視聴による研修を行いました。



アンガーマネジメント研修の様子

HEALTH AND SAFETY

# 職場の労働安全衛生

従業員が健康で安全に仕事に取り組めることは、日本化薬グループが成長し、お客様の満足度を向上させるために必要不可欠です。日本化薬グループでは、「安全第一」と「健康経営」につながるさまざまな安全衛生活動や教育訓練を計画的に実施しています。

詳しくはWEBをCHECK!

- 日本化薬グループの健康経営
- 安全衛生活動に対する取り組み



継続して事業を営むためには事故のない職場づくりが必要だね



機能化学品事業

## 第14回日本化学工業協会RC(レスポンスイブル・ケア)賞・審査員特別賞を受賞

厚和産業<sup>※</sup>では、従業員の安全や健康を守るためにさまざまな安全衛生活動に取り組んできました。①体験型教育訓練機(エスペランサ)12機の自作およびこれらを用いた教育訓練システムの構築、②ヒヤリハットの解析方法を工夫することによる作業現場での効果的なリスク低減の推進、③「健康なくして安全なし」をモットーに従業員の健康増進を目的とした「健康増進プロジェクト」の取り組みなど全社を挙げた安全文化構築活動が評価されたことで受賞に至りました。

厚和産業では2018年度以降、無事故無災害を継続していますが、これからも日本化薬グループとして安全文化のさらなるレベルアップを図っていきます。

※厚和産業：厚狭工場関連業務を行うグループ会社

危険を疑似体験!



教育訓練機を用いて事故の怖さと安全作業の重要性を再認識



「健康増進プロジェクト」の一環であるウォーキングイベントの様子

PICK UP ACTIVITY

アグロ事業

## クロルピクリン通報訓練を実施しました

アグロ事業では、野菜類の栽培で病虫害から作物を守るために土壌の消毒に使う、「クロルピクリン」を有効成分とする「カヤククロールピクリン」「ドジョウピクリン」「クロピクフロア」などの製剤を扱っています。

2019年10月の訓練では、クロルピクリンを積載したトラックが、高速道路インターチェンジから本線に入った所で運転を誤り側壁に接触し車が横転、クロルピクリンの一部が高速道路脇に落下し、落下した缶は破損して臭気が出ていることを想定した「クロルピクリン物流事故緊急応援出動通報訓練」を実施しました。協定会社、協力事業場と連絡を取り合いながら、事故現場の確認、FAX送信、緊急車両の手配、緊急出動班による緊急車両への機材積込みと、本番さながら真剣に取り組まれました。

万一の事故・災害に備え、訓練を実施しています



通報訓練の様子